

特定非営利活動法人 連塾 理事長 殿

特定非営利活動法人 連塾  
**活動実施報告書**

特定非営利活動法人 連塾 の事業の一環として、下記の事業活動を実施しましたので、報告書を提出します。

<b>氏名 又は団体名称</b>	横山嘉和	<b>記入日</b>	2007年11月18日
----------------------	------	------------	-------------

<b>事業名</b>	健塾・連塾合同研修旅行(山田方谷に学ぶ)		
<b>日時</b>	2007年11月17日(土) 9:15~16:30		
<b>場所</b>	高梁市中井町、成羽町吹屋、新見市法曾		
<b>従事者数</b>	1名(内 連塾会員 1名)		
<b>対象</b>	NPO法人連塾会員		
<b>参加者数</b>	12名(内 高校生以下 0名)		
<b>参加費</b>	6,000円/1人		
<b>協賛団体や 後援団体等</b>	なし		
<b>実施報告</b>	<b>内容</b>	山田方谷生誕の地において講師による山田方谷論聴講及び遺品に接する事でその人となりと偉大さを識る。縄文土器を鑑賞、人間のルーツと現代人が忘れかけている情念心への気づきを呼び戻す。吹屋の昔の繁栄をしのび、現代の地方再発掘・活性化の道をさぐる。	
	<b>成果と課題</b>	参加者の意識も高く、各自各自が良い収穫を得て帰られた。 目的とした事は十分満足できた。 多少時間が短い感があり、深掘りしたい点については、次回以降個別に企画して行くのが良いのではないだろうか。	

## 収 支 決 算 書

収 入		支 出	
内 訳	金 額	内 訳	金 額
参加費 (6,000円×12名+3,000円)	75,000	猪凡来美術館 講師謝礼 土産 弁当代 広兼邸入館料 笹畝坑道入館料 バス代 写真・CD代	2,400 3,000 1,050 15,000 3,600 2,700 45,000 2,250
<b>計</b>	<b>75,000</b>	<b>計</b>	<b>75,000</b>

当日配布した資料、撮影した写真やビデオ等の関連資料を添付しお送りください。  
原則として、事業実施後1ヶ月以内に提出してください。

平成19年9月13日

## 健塾・連塾合同研修旅行

(山田方谷学習と縄文式土器に親しむ旅)

健塾1期生 横山嘉和

偉人山田方谷誕生の地と縄文式土器の美術館、及び吹屋ふるさと村を訪れ、秋の1日をふるさと再発見しながら、楽しく過ごしたいと思えます。参加人数等により交通手段等変わることがあり、完全に固まったものではありませんが、現在の所、下記の通り計画しています。

### 訪 問 先

高梁市中井地域交流センター

山田方谷誕生の地にあり、方谷の遺品展示あり。

塩田館長とビデオにより方谷について解説頂く予定。

方谷園 交流センターすぐ近く、山田方谷の墓あり

猪風来<sup>いふうらい</sup>美術館(新見市法曹陶芸館) 縄文式土器鑑賞

吹屋ふるさと村

広兼邸 ベンガラで栄えた吹屋の大庄家住宅

笹畝坑道 黄銅鉱を採掘した坑道見学

吹屋小学校 明治33~42年に建築された日本最古級の木造校舎  
ととろの出て来そうななつかしい雰囲気あり

**実施日:**平成19年11月17日(土)

集合 9:15 備中高梁駅

解散 16:30頃 "

高梁駅まで車でいられる方には、別途駐車場を案内させていただきます。

**申込:** お名前、高梁駅まで車で行くかどうかを、平成19年9月30日までに佐藤までご連絡ください。こちらの締切は、第1次締切です。まずは人数確認のため、ご参加を希望されます方はご連絡ください。

**費用:**

- ・猪風来美術館 200円/人
- ・食事代(弁当) 1000円/人
- ・広兼邸 400円/人
- ・笹畝坑道 300円/人

(その他) 塩田館長謝礼、高梁駅~岡山駅 交通費  
別途高梁までの交通費 820円×2

## スケジュール

9 : 1 5	高梁駅前集合			
	伯備線 岡山発	倉敷着	高梁着	
	8:16	8:32	9:04	
1 0 : 0 0	猪風来美術館 着			
	1 0 : 4 0	出発		
	1 1 : 1 0	中井地域交流センター 着		
		ビデオ 館長講演 (約1時間)		
		[昼食] 中井町農産加工部手作り弁当 ( ¥ 1 0 0 0 )		
		テンペ料理 ( ? )		
		方谷園 方谷の墓参り		
1 2 : 5 0	出発			
	1 3 : 3 0	吹屋広兼邸着		
		見学		
1 4 : 0 0	出発			
	1 4 : 1 0	笹畝坑道着		
		見学		
1 4 : 4 0	出発			
	1 5 : 0 0	吹屋町並地区着		
		吹屋小学校及び町並み見学		
1 5 : 3 0	出発			
	1 6 : 2 0	高梁駅着 解散		
	伯備線 高梁発	倉敷着	岡山着	
	16:30	17:03	17:21	
	17:10	17:43	18:00	



H17年上り 岡山県で活動中



猪風来美術館

(新見市法曾陶芸館)

造形家

(陶芸・彫刻・絵画・縄文デザイン)

いぶら い

猪風来 IFURAI

〒719-2552 岡山県新見市法曾609-1

美術館 TEL・FAX(0867)75-2444

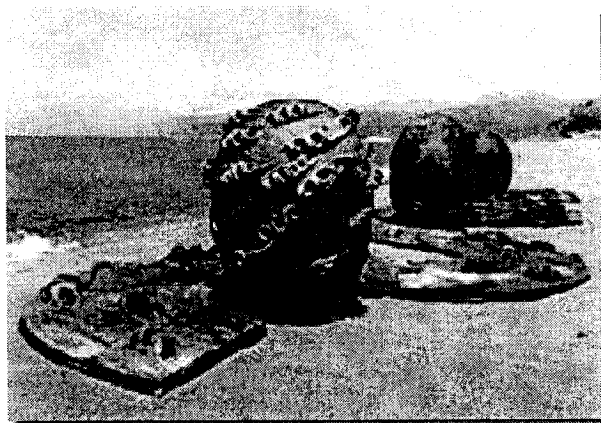
自宅 TEL・FAX(0867)75-2420

H19.8.1A

■画遊房 ノジュール■

# 猪風来

## ifuurai



縄文山河 野焼き土偶(1995 90×590×h85cm)

浜益村にてたて穴住居美術館造りを雪解けと共に  
スタートする計画をすすめております。  
手造りにてこつこつすすめます。  
2～3年後オープンを目指しています。

### - 略歴・業績 -

北海道浜益村在住。  
作品は一千点をこえる。黄金山と川をモデルとした  
「縄文山河」は東京展大賞を受賞。  
また、宮本亜門氏(演出家)の依頼で  
「縄文の渦」(450cm)を創作、全国的に活躍している。

### 猪風来作品所蔵美術館

- ・丸木美術館(埼玉)
- ・枚方市民ギャラリー(大阪)
- ・森と湖の芸術館(阿寒湖)
- ・佐喜真美術館(沖縄)
- ・宮本亜門邸(沖縄)

↓クリックすると拡大してご覧になれます。



[HOME](#) / [岩本 英希](#) / [岡林 茂](#) / [たかた のりこ](#) / [ご案内](#) / [E-Mail](#)

北海道人・特集バックナンバー HOME バックナンバー一覧



[特集]



## 記憶回路

縄文造形家猪風来は、1947年、村上信義として広島県に生まれ、高校卒業後上京、武蔵野美術短期大学油絵科を卒業し、シュールレアリズム、ダダイズムなどを指向する洋画家となった。

若く名もない画家村上信義が、縄文造形家猪風来と名乗るようになったきっかけは、千葉の山中で拾った土器片であったという。

「あの頃は、食えないアーティストだった。

食えないアーティスト。

挫折感もあったし、人生に絶望もしていた。人間嫌い状態だったんだね。

そんな中で、自然だけが自分を癒してくれた。

自然を求めて、山を歩き、散歩をしていたら、足下に何か土器片があった。

掘り出してみると縄文の土器だった。

手にとって見ていると不思議な胸の高鳴りがしてきたんです。

ピカソやゴッホなどの西洋画に感動して、油絵を始めたんだけど、それらは外的な感動だった。結局自分にとって、外からやってくる感動にすぎなかったんです。

しかし、土器片を見ながら、ときどき、わくわくした感動は内的な感動。自分のどこかの記憶回路を刺激する内から突き動かす感動でした。

自分を突き動かす、わけのわからない感動、それがどこから来るのか。感動しているんだけど、しかし、その感動の所在がわからない。

それを探求しているうちに、古代に対する、人類史的過去に対する興味が高まっていった」。



石器時代から縄文時代、そして弥生時代、古墳時代へと続く発達史観の中では、縄文は弥生の未発達なもの、野蛮で劣るものと思われてきた。

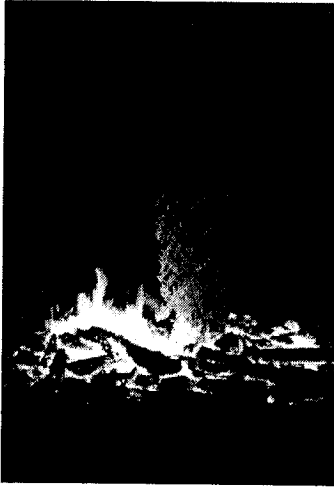
縄文文化に独自の美を発見した最初の日本人は岡本太郎だった。

1951年、岡本は、たまたま立ち寄った東京国立博物館の考古学のコーナーで縄文土器に出会う。このとき「血の中に力がわき起こるのを覚えた」という。

1952年、美術雑誌「みづゑ」に「縄文土器論」を発表し、縄文の美的価値を訴えた。これに刺激され梅原猛などが、学者の立場から研究を進め、縄文文化の独自の価値を明らかにしていった。

それでも後に猪風来と名乗る画家村上信義が、縄文土器に出合った1976年前後、まだ縄文土器の制作手法は解明されていなかった。創作の手がかりを求めて「ひたすら土器とにらめっこ」する時代が続いた。

ふとした出会いから、同じ千葉県四日市市の加曽利貝塚博物館に、縄文土



虚空へ 野焼き土偶 1996

器の復元を目指すグループがいることを知り、そこでの交流、技法交換を通じて、少しずつ縄文の土器を復元していった。

猪風来の創作は、縄文時代とまったく変わらない野焼きである。

野天のたき火の中で作品を焼き上げる野焼きは、陶芸の窯のようなコントロールが効かず、歩留まりを引き上げるのが極めて難しい。そうした中で、猪風来は陶窯を超える歩留まりを実現するという。

「野焼きに関しては、わしは日本一でしょう」と断言する。

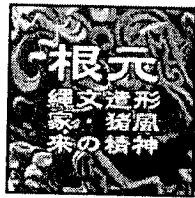
しかし画家村上信義が縄文造形家猪風来になるためには、さらにもう一つの出会いが必要であった。



北海道人・特集バックナンバー HOME バックナンバー一覧

## 北海道人

[特集]

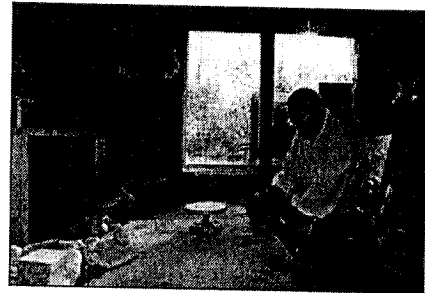


## 出会い

丸木位里・俊夫妻は、ともに戦前から日本画壇の第一線に立って活躍してきた画家である。夫妻の共作で戦争の悲惨さを訴えた「原爆の図」は世界的に著名だ。埼玉県東松山市に財団法人原爆の図丸木美術館があり、縄文遺跡巡りをしていた村上信義、後の猪風来は、ここで偶然、丸木俊と出会う。

「茶飲み話の中で、縄文土器を作っていること話したら『どんなものか見たいわね』と言うんだよね。一ヶ月くらい後、いくつか持っていったんです。そうすると位里さんと子どもも見てくれて『こりやええ、こりやすごい。こりや、うちで作品展やらんかのう』と言うわけです。

ところが、その当時は土器の模写ばかりで、小品の創作品はあったものの作品展に値するようなのは作っていなかった。そのことを話すと、いつ頃までに用意できるのか、と言う。一年間の時間をもらって仕事を辞め、作品づくりに没頭したんだね」。



1986年、埼玉県東松山市の財団法人原爆の図丸木美術館で初個展「猪風来・現代創作土偶展」が開かれる。

縄文造形家猪風来の誕生だ。

「縄文の土器を模写する。

同じように線を引き、同じように文様を入れていくと、数千年前にその土器を作った作者の気持ちがわかってくるんだね。土器の向こうに作者が立ち現れる。

数千年の時空を超えた会話ができるんだ。

土器を媒介にした精神的な会話を続けていくうちに、だんだん自分が偽物だと気づいていくわけだ。

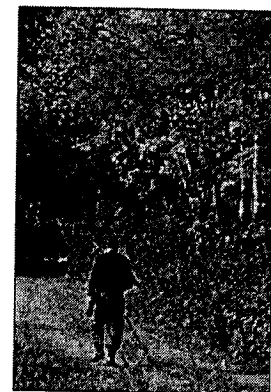
本物になりたい。

そのためには、自分の命をかけてやる覚悟が必要だ。

縄文人はあの造形を大自然と暮らしの中から生み出した。

であるならば、わしも暮らしをまったく変えてしまう必要がある。

そうすることでしか、自らが本物と思える作品は作りえない」。



村上信義が猪風来となり、夫婦そろって北海道浜益村に移り住むことになったのは、初めての個展からわずか2年後のことだった。

3/5

このサイトについて 運営体制 広告掲載について プレスリリース  
Copyright (c) HEART ALLIANCE All Rights Reserved.

北海道人・特集バックナンバー HOME バックナンバー 一覧

## 北海道人

【特集】



## 土夢華

「ここには半径50キロ、直径100キロの大自然があるわけです。

こちらに来て開眼したのは、この北海道の大地の息吹、四季折々の森羅万象。

それらから膨大なエネルギーをもらえる。

創作の源になる大きな力、大きなエネルギー、それらが絶えずわしの体に流入してくるんだ」。

北海道に移ってからの猪風来は、十分に引かれた弓から矢が放たれるように、創作に没頭していった。

移住後間もなく、自宅分娩で出産した長男を自ら取りあげた感動から『命』のシリーズが作られた。続いて「命の中身が知りたくなった」として、命の中身＝心をテーマにした『情念』のシリーズが作られる。

その後『森羅万象』シリーズ、『創作縄文土器』シリーズと、創作意欲は衰えることなく続き、95年には、東京、大阪など国内6都市で、全国縦断展を行った。97年には、この縦断展の最後を飾った沖縄の特有な縄文文化をテーマとした『沖縄』シリーズが作られた。

一昨年からは新潟県立歴史博物館館長小林達雄氏の依頼によって、火炎土器をモチーフとしたオブジェの制作に取り組む。火炎土器は縄文芸術の精華といわれ、新潟県は火炎土器文化の中心地である。

猪風来は、火炎土器の生命力を現代に蘇らせた創作縄文土器を「土夢華(どむか)」と名付けた。



土夢華

「今まで西洋にはゴシックだとか、ルネッサンスだとか、ロマネスクだとか、いろいろな様式美があった。こうした様式美に対して、今、根底から対抗できるのは縄文しかない。

今となっては土器としてしか伝わっていない縄文も、かつては総合的な芸術であり、様式だった。

縄文の造形美をただ復活させるだけでなく、21世紀の新しい様式として復活させ、かつ、あらゆるジャンルに応用・発展させる。

平面、立体、建築、絵画、音楽。

総合芸術として新たに創造する。

日本の各ジャンルの第一人者を集めて、新しい縄文の大きな花を咲かせる、そういう動きを作りたいともくろんでいるんです。

今、取り組んでいる『土夢華』はその基盤づくり、卵づくりだね。

『土夢華』をレリーフにして縄文の壁を創作する。

壁ができ柱ができると、建築が可能になる。建築が可能になると、あらゆる



分野に応用が利く。そうした基盤づくりを、これから数年がかりで進めていきたい」。

「縄文」を一作家の私的な作風に終わらせず、既存の芸術様式、ひいては20世紀芸術に総体と対置する新しい総合芸術として広めたいと猪風来は言う。

縄文土器片の発見、老画家夫妻との出会いが、若き名もなき画家を猪風来に変えたと言うならば、なお、それに「時代」というものを加えなければなるまい。

北海道人・特集バックナンバー HOME バックナンバー一覧

## 北海道人

[特集]



## 21世紀の芸術

1966年、政府は閣議を開き、新東京国際空港を千葉県成田市三里塚に建設することを決定し、住民から同意を得ることなく、一方的に事業を進めようとした。

強権と強行。

今なお続く「成田空港問題」が始まった。

猪風来と名乗る以前に画家村上信義が、18年間、生活の場としていたのが千葉県成田市だった。関東としては比較的恵まれていた自然を愛してのことであったが「戦後最大規模を持ち、日本全国を巻き込んだ戦後日本の悲劇」(東大名誉教授宇沢弘文)と言われたこの事件に、いつしか巻き込まれ、影響を受けていった。

「激しい社会のひずみがあそこには突出していたね。

空港というのは現代造形物の最たるものだから、それが持っている邪悪な面、おぞましい面が見えてしまった。

人類が400万年かかって辿りついた姿が、あのようにおぞましいものなのか。精神性の欠片もない。

それどころか精神性を剥奪すればするほど良しとされる造形、それが人類が行き着いた形なのか。

そんなわけではない。

では、人類が誇りえる造形とは何か。

物としての造形物を超える精神性を持った物、精神性を持った造形物とは何か、という問題に突き当たったね」。



猪風来の創作の源となっているのは、現代文明に対する深い憂慮だ。病みつつ廃退し続ける20世紀文明と対置し、人類の精神文化を救う精神の豊潤さが縄文にはあると言う。

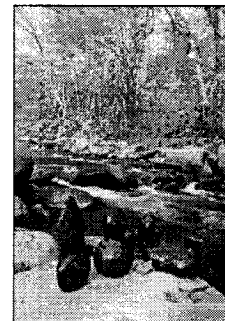
「20世紀芸術は膨大な創作を残したけれども、今になって見返してみると、20世紀になって人類がなした芸術は、400万年の人類史にとって、どれほどの美的価値を持った芸術だったのか。

今、20世紀芸術は終焉と瓦解の時をむかえている、とわしは思う。

人間は生命体であり、有機体だ。有機体である以上、豊かな土、水、風、そして光が必要不可欠だ。

しかし20世紀の様式は、そこから乖離していく性格を持っている。

それらをもう一度見直して、生命体として存在し、周囲を取り巻く土や風、草木や動物、まわりの命のあり方というものを反映した根元的な力を持った、400万年の人類史に則った造形物を今、人類は求めている」。



天然ベンガラで  
彩色した土器

ルネッサンスは文芸復興運動と訳される。

14世紀、イタリアの都市国家で始まったこの運動は、ギリシャ・ローマ時代の古典研究から人間の自由な精神の豊かさを発見し、形式主義、権威主義に陥ってしまった当時の芸術文化を置き換えた。



20世紀芸術は終わったと猪風来は言う。

確かに、20世紀、芸術は奇に奇を加え続け、行き着くところまで行ってしまったかのように思える。

袋小路に陥った芸術を、そして人間の魂を救うものがあるとするならば、やはりそれは汚れのない自然の中にあるのだろう。なぜならば、人間も結局は、自然の所産のひとつなのだから。

世界各地の黄金山の麓で、今静かに21世紀のルネッサンスが進められているのかもしれない。

5/5

[このサイトについて](#) [運営体制](#) [広告掲載について](#) [プレスリリース](#)

Copyright (c) HEART ALLIANCE All Rights Reserved.